

田舎に遊びに！ちょっと佐久まで！

# 田んぼ通信 @ 湯原地区

佐久田んぼオーナー制度

host 湯原岩清水の会



2010.5.29 田植え体験

佐久市が推進する「交流人口の創出」のための施策として、市民の皆さんを中心とした農業体験の実施を提案したところ、その受入れ団体として手を挙げてくださったのが、佐久市湯原の「湯原岩清水の会」の皆さんです。

湯原地区は水の豊富な場所で、地域のあちこちで清水がこんこんと湧き出しています。会の「岩清水」の名も、この恵まれた自然環境にちなんで付けられたそうです。清冽な水に育まれる稲たちがどれほどの実りをもたらすのか、とても楽しみです。

湯原岩清水の会の田んぼオーナーの募集に申し込まれたのは 7 オwner、29 名の皆さん。都市圏に在住され、普段なかなか土に触れ合う機会もない中で、ある方は幼いころの田植え、稲刈りを思い出すように、ある方は初めての体験として、期待をもって申し込んでくださったように思います。



5月29日土曜日、記念すべき第1回の農業体験として、「田植え体験」が開催されました。



当日、湯原地区の田んぼに集まったのは、26名のオーナーたちです。まず、湯原岩清水の会の皆さんから、歓迎のご挨拶と、作業行程などの説明が行われました。初めての体験に、参加者の皆さんも熱心に耳を傾けています。

そしていよいよ田植え開始。恐る恐る田んぼに素足で踏み入れ、泥に足を取られながら、慣れない手つきで苗を植えていきます。当初は、1列植えるのにかなりの時間がかかっていましたが、岩清水の会の皆さんの手ほどきを受け、次第に作業スピードがあがってきます。



一方、岩清水の会の皆さんも、近頃はあまり手植えをしておらず、久々の



作業に当初はやや戸惑い気味でした。しかしそこは農業のプロ、次第にかつて培った勘を取り戻し、参加者の皆さんへの指導にも熱が入ります。

1時間ほど熱心に作業し、小休憩の時間となりました。子供たちは、畔を走り回ったり、カエル取りに熱中したりしています。お母さんたちは、畔に自生する春の七草の一つ、セリを熱心に摘んでいました。きっと今夜の食卓に並ぶことでしょう。

休憩ですっかり元気を取り戻した皆さんは、再び田植えに戻ります。作業終了時間近くになっても、まったく手を止めようとしません。よほど楽しいのか、すべて植えきって



やるという意地なのか…。



正午にタイムアップで作業終了。さすがにすべてを植えることはできませんでしたが、皆さんの顔からは、適度な疲労の色と、体験作業への満足感からか、満面の笑みが見てとれます。田んぼの脇に湧き出る清水で気持ちよさそうに足を洗い、皆さん畔に立って、自らの作業の出来映えを熱心に見ていました。

作業の後は、いよいよお待ちかねの昼食です。湯原岩清水の会のお母さんたちが心をこめて作った料理を頂きました。本日のメニューは、「各家庭の味」。お母さんたちが、それぞれ自宅で丹精込めて作ってきた料理が食卓に



並びます。

おにぎりも、形も大きさも様々なら、その具も家庭ごとにバラエティーに富んでいます。自宅で漬け込んだカリカリ梅干しのおにぎりや、筍御飯のおにぎり、キビ入りのおにぎり、おこわのおにぎり、玄米おにぎりなど、地元産の旬な食材がふんだんに使われています。ほかに、山ブキの煮付け、朝摘みの高原レタス、セリのおひたし、自家製味噌や地元産大豆の豆腐を使ったみそ汁など、どれもこれも新鮮でおいしく、参加者の皆さんも次々に平らげていました。

食事の最中には、それぞれの自己紹介なども行われ、参加者の皆さんと岩清水の会との交わりもどんどん深まってきたようです。

さて、次回の体験は7月末を予定しています。稲たちの生長を観察したり、ばれいしょ掘りや自家野菜の収穫体験に挑戦したりする予定です。湯原地区の先には東洋一の大きさを誇るパラボラアンテナがありますが、その見学会なども予定しているようですよ。

この交流が、都市住民の皆さんと田舎に住む私たちとの相互に、元気を与えあえるものになれば最高ですね。1年間、ともに楽しみあいましょう！

